

ちひろ・ていねいなくらし

2019年10月4日(金)~ 12月15日(日)

蔦とつるばらと子どもたち・・・ この家の生活は、 私には本当にすてがたい



1-1, そうじをする子ども 『ひとりでできるよ』(福音館書店)より 1956年

どんどん経済が成長してきたその代償に、人間は心の豊かさをだんだん失って しまうんじゃないかと思います。(中略) 私は私の絵本のなかで、いまの日本から 失われたいろいろなやさしさや、美しさを描こうと思っています。 いわさきちひろ 1972年

絵本画家として活躍しながら、一家の主婦として家庭を支えたいわさきちひろ。 忙しいなかにも、おしゃれを楽しみ、食事にも手をかけ、家族と過ごす居心地の よい住まいをしつらえました。1966年には信州の黒姫高原に山荘を建て、自然の なかに身を置く時間を大切にしていました。衣食住それぞれに工夫を凝らし、 日々を愛おしむちひろのくらしぶりは、その絵のなかにも、当時の時代の空気と ともに映し出されています。本展では、作品とともに愛用の品々やちひろのこと ばを紹介し、ていねいなくらしとはなにかを、あらためて見つめ直します。



右画像 1-2, ティーセットとグラスにさしたスイートビー 「美しい会話」(千趣会) より 1971年 左画像 1-3, 白いマフラーをした緑の帽子の少女 1971年

展覧会名	ちひろ・ていねいなくらし
会期	2019年10月4日(金)~12月15日(日) ○開館時間=9:00~17:00 ○休館日=10月23日(水)11月27日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室1・2
料金	大人800円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は 700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/ 視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館、信濃毎日新聞社
協力	学校法人文化学園 文化服装学院
特別協賛	株式会社ジャクエツ
協賛	小野谷機工株式会社

展覧会の見どころ おしゃれな子どもたちが勢ぞろい

いわさきちひろが描く子どもたちは、おしゃれで着心地のよさそうな服を着ています。とくに秋から冬への季節、子どもたちは帽子やマフラー、色とりどりのセーターに身を包み、服が画面に華やかな印象を与えています。装う子どもたちの姿からは、日々のくらしを慈しみ愛情深く見守る、母親のあたたかなまなざしとともに、ちひろ生来のデザインの好みやファッションセンスも垣間見えます。

あわせて多目的ギャラリーでは、文化服装学院との共同企画として、服装科の学生たちが授業のなかで取り組んだ「ちひろの絵からイメージを拡げて制作した子ども服」を、デザイン画などとともに展示します。



子ども服制作: 文化服装学院 服装科

スタイリング:本谷智子 撮影:北嶋宏美

主婦や母親としてのちひろ

ちひろの自伝的な絵本『わたしのえほん』、5歳の息子・猛をモデルに描いた絵本『ひとりでできるよ』、料理や食卓風景を描いたヒゲタ醤油の広告のためのカットなど、ちひろの家庭内でのくらしや子育てのようすがいきいきと伝わってくる作品を展示します。

ちひろ愛用の品々を紹介

ちひろのおしゃれに欠かせなかった帽子やアクセサリー、食器や押し花器、部屋に飾られていた人形など、日々のくらしに彩りを添えたゆかりの品々を紹介します。



1-4, 母親とお手伝いをする子ども1962年

出展作品数 約80点

バラ飾りの帽子の少女 1971 年/白いマフラーをした緑の帽子の少女 1971 年/『わたしのえほん』(みどり書房 改訂版:1978 年新日本出版社) より 1968 年/『ひとりでできるよ』(福音館書店) より 1956 年/『美しい会話』(千趣会) より 1971 年/『ゆきのひのたんじょうび』(至光社) より 1972 年

関連イベント

主な出展作品

●松本猛ギャラリートーク

日時:10月5日(土) 14:00 ~ 会場:展示室1 参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

●ギャラリートーク

日時:毎月第2·4土曜日 14:00~14:30 会場:展示室1·2 参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。 ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。 ※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



1-5, バラ飾りの帽子の少女 1971年



1-6, アトリエの自画像『わたしのえほん』 (みどり書房 改訂版: 1978年新日本出版社)より 1968年



<企画展> 瀬川康男 坦雲亭日乗ー絵と物語のあか

2019年10月4日(金)~12月15日(日)

絵から ものがたりが 生まれる ものがたりから 絵が 生まれる

その あわいのところで おれは 生きていたい

瀬川康男



2-1、『絵巻平家物語(五) 清盛』(ほるぶ出版)より 1987年 個人蔵

絵本界の鬼才と呼ばれた画家・瀬川康男。1977年、都会の喧騒からはなれ、群馬県の北軽井沢に移り住んだ瀬川は、植物や動物の写生に没頭します。自然が生み出す形と向き合うなかで、黒いノートに、日々の所感や絵に関する思いを記しました。

1982年、瀬川は長野県の青木村入奈良本の古い大きな家に居を移します。「坦雲亭」と名付けたこの家で、友人や愛犬たちとの交流を深めながら、自作の絵本や壮大な歴史絵本『絵巻平家物語』シリーズなどを生み出していきました。この時期から「坦雲亭日乗」と題した日記を書き始めます。晩年まで記し続けたこの日記には、画家が生きた時間のすべてが記録されています。

本展では、日記「坦雲亭白乗」やノートに綴った画家のことばを手がかりに、絵本原画、タブロー、スケッチなどの作品を展示します。「絵をつかまえて生きようと思った」と語った画家・瀬川康男の絵にかけた思いと人生に迫ります。



展覧会名	<企画展> 瀬川康男 坦雲亭日乗一絵と物語の間
会期	2019年10月4日(金)~12月15日(日) ○開館時間=9:00~17:00 ○休館日=10月23日(水)、11月27日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室4
料金	大人800円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの 方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名 まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

2-2, 月にとぶ 2005年 個人蔵

主催	ちひろ美術館、信濃毎日新聞社	
特別協賛	株式会社ジャクエツ	
協賛	小野谷機工株式会社	
協力	エプソンアヴァシス株式会社、株式会社オフィス渋谷、 遊美、一兎舎	

展覧会の見どころ 瀬川康男の「日乗」をひもとく

1977年以降、画家は、102冊におよぶノートに日々の出来事や心に浮かぶことばを記し続けました。画家が生きた証ともいえる記録「日乗」のことばから、絵にかけた渾身の思いをひもときます。

8年を費やした『絵巻平家物語』

平家の栄華から滅亡までを描いた「平家物語」。壮大な物語を、瀬川康男が8年の歳月を費やして完成させた『絵巻平家物語』シリーズから、8巻の絵本原画を一堂に展示します。

「月にとぶ」「夢にとぶ」「緋にとぶ」一最後の連作がそろう

2005年に描かれた"ふくろう"の連作「月にとぶ」「夢にとぶ」「緋にとぶ」。大きなタブローとしては最後の完成作であった連作3点がならびます。

出展作品数

約100点



作家プロフィール



瀬川康男 Yasuo Segawa 1932 ~ 2010

1932年愛知県岡崎市生まれ。13歳より日本画を学び、17歳で油絵を始める。1960年、初めての絵本『きつねのよめいり』を出版。1967年『ふしぎなたけのこ』で第1回BIBグランプリ、1968年『やまんばのにしき』で小学館絵画賞、1987年『ぼうし』で絵本にっぽん大賞、講談社出版文化賞絵本賞、1988年国際アンデルセン賞画家賞次席、1989年『清盛』でBIB金のりんご賞、1992年『絵巻平家物語(全9巻)』で産経児童出版文化賞大賞など、国内外の受賞多数。1977年に群馬県の北軽井沢に、1982年より長野県青木村に住み、絵本と並行してタブローの制作も続けた。

主な出展作品

『絵巻平家物語』シリーズ (全9巻 ほるぶ出版)より 1984年~1990年/『ぼうし』 (福音館書店)より 1983年 (単行本 1987年)/『だれかがよんだ』 (福音館書店)より 1989年/『虫のわらべうた』 (福音館書店)より1986年/『かっぱかぞえうた』 (福音館書店)より1993年/「月にとぶ」2005年/「夢にとぶ」2005年/「緋にとぶ」2005年

関連イベント

●展示関連イベント「瀬川康男 坦雲亭日乗―絵と物語の間」スライドトーク

日時:10月19日(土)14:00 ~ 14:30 会場:多目的ギャラリー参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

●ギャラリートーク

日時:毎月第2·4土曜日 14:30~15:00 会場:展示室4 参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由



2-4, 『虫のわらべうた』(福音館書店)より 1986年 ちひろ美術館蔵

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。 ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。





上画像 2-5,『かっぱかぞえうた』(福音館書店)より 1993年 左画像 2-6,『ぽうし』(福音館書店)より 1987年 ちひろ美術館蔵

3

ちひろ美術館コレクション 国交樹立 100 周年記念

ポーランド、フィンランドの絵本原画

2019年10月4日(金)~ 12月15日(日)



3-1, ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド) 『すきすきだいすき』 より 1991年

展覧会の見どころ 100年のつながり。フィンランド、そしてポーランド。

フィンランドとポーランドが日本と国交を結んだのは1919年。 その | 年前の1918年に、フィンランドもポーランドも隣接する 強国の長い支配の後、独立を勝ち取っています。両国とも厳しい 歴史に翻弄され、暗く長い冬のイメージで語られることもあります が、静かな空気が漂う絵本作品も多く生まれています。

ポーランドを代表する絵本画家、ヴィルコン

今回ご紹介するポーランドの画家たちのなかで、ユゼフ・ヴィルコンは89歳にて現役で活躍中。ちひろ美術館には彼の作品が130点ほど所蔵されており、彼の手による動物や魚の彫刻作品は安曇野ちひろ美術館の館内に常設され、親しまれています。松川村を何度か訪れてもいるヴィルコンの作品には、自然や動物への愛情が感じられます。

フィンランドの絵本画家たち

娘も絵本画家として、日本で活躍しているペッカ・ヴォリは大胆な 構図の絵で知られる画家です。彼の描くフィランドの巨人は、どこ かユーモアが漂います。一方、同じくグラフィックデザインを学ん だカーリナ・カイラは童話の絵を多く手がけ、その作品には水彩 画の透明感とやわらかさが感じられ、対照的な美しさがあります。

出展作品数 約20点

主な出展作品

ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド) 『地球の4人の息子たち』より 1991年/ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド) 『すきすきだいすき』 より 1991年/エルジュビエタ・ガウダシンスカ (ポーランド) 『マーチンとおそろしいどろぼう』より 1988年/ペッカ・ヴォリ (フィンランド) 『巨人のはなし』より 1981年/カーリナ・カイラ (フィンランド) 『おやゆびひめ』より 1988年/ハンヌ・タイナ (フィンランド) 『女の子と木と鏡』より 1987年



3-2, ペッカ・ヴォリ (フィンランド) 『巨人のはなし』 より 1981年

バルト沿岸の2国からうまれた絵本たち

2019年に日本との国交100周年を迎えるふたつの国、ポーランドとフィンランド。両国は高緯度に位置し、北海道の最北端よりさらに北にあります。 冬は夜が長く、文学や映画など室内の文化が発展したのもその影響があるのかもしれません。本展では、当館のコレクションからポーランドとフィンランドの5人の画家の作品23点を紹介・展示します。 多くの叙事詩や神話文学を生み出したフィンランド。社会主義の時代に多彩な絵本が生まれたポーランド。それぞれの絵本の作品をお楽しみください。



展覧会名 ちひろ美術館コレクション 国交樹立 100 周年記念 ポーランド、フィンランドの絵本原画

会期 2019年10月4日(金)~12月15日(日)

○開館時間=9:00~17:00

○休館日=10月23日(水)11月27日(水)

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室3

料金 大人800円/高校生以下無料

団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

後援 フィンランド大使館

安曇野ちひろ美術館

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 高津・宗像・田邊・畔柳 〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原 3358-24 TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774 E-mail:apublicity@chihiro.or.jp



赤い毛糸帽の女の子 1972年

ちひるのお誕生日会

2019年12月15日(日)は、いわさきちひろ101歳の誕生日です。 ちひろの誕生日をみんなで楽しくお祝いしましょう!絵本カフェの特別 メニューの他、楽しいイベントを企画して、ご来館をお待ちしております。

12月15日限定

ドレスコード=赤

ささやかなプレゼントをご用意しております





昨年の誕生会のようす

展示関連イベント

「瀬川康男 坦雲亭日乗―絵と物語の間 | スライドトーク

10月19日(土) 14:00~14:30

絵本界の鬼才と呼ばれた信州ゆかりの画家・瀬川康男の作品と人生に ついて、当館スタッフがスライドを使ってお話します。

会場: 多目的ギャラリー 参加費: 無料(入館料のみ) ※参加自由

展示関連イベント

松本猛ギャラリートーク

10月5日(土) 14:00~

「ちひろ・ていねいなくらし」展に関連し、ちひろ のひとり息子である松本猛が、展示作品を見なが ら、母・ちひろとの思い出や作品について語ります。

会場:展示室1 参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由



撮影:島崎信一

●入館無料デー

※ご住所のわかるものを受付でご提示ください。

11月10日(日) 安曇野市民入館無料デー

11月17日(日) 白馬・小谷村民入館無料デー

12月 1日(日) 長野県民入館無料デー

いい育児の日関連イベント

ベビーカーでおでかけしよう! ファーストミュージアムデー

11月19日(火) 10:30~11:30

ファーストミュージアムとは、生ま れてはじめて訪れる美術館。あかち ゃん絵本のおはなしの会や、美術館 ガイドツアーなど、あかちゃんとい っしょに美術館をゆったり楽しみ ましょう。

対象:0~2歳の子どもとその保護者 参加費:無料(入館料のみ) 申し込み:要事前予約 (10月4日よりHP・TELにて受付開始)



●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示の見どころなどをお話します。 日時:毎月第2・4土曜日 14:00~ちひろ展/14:30~企画展

参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

●おはなしの会

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや 素話を、親子でお楽しみください。

日時:毎月第2・4土曜日 11:00~11:30 参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

2月16日(月

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 高津・宗像・田邊・畔柳 〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原 3358-24

TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774 E-mail:apublicity@chihiro.or.jp